

明治法律學校
卒業生

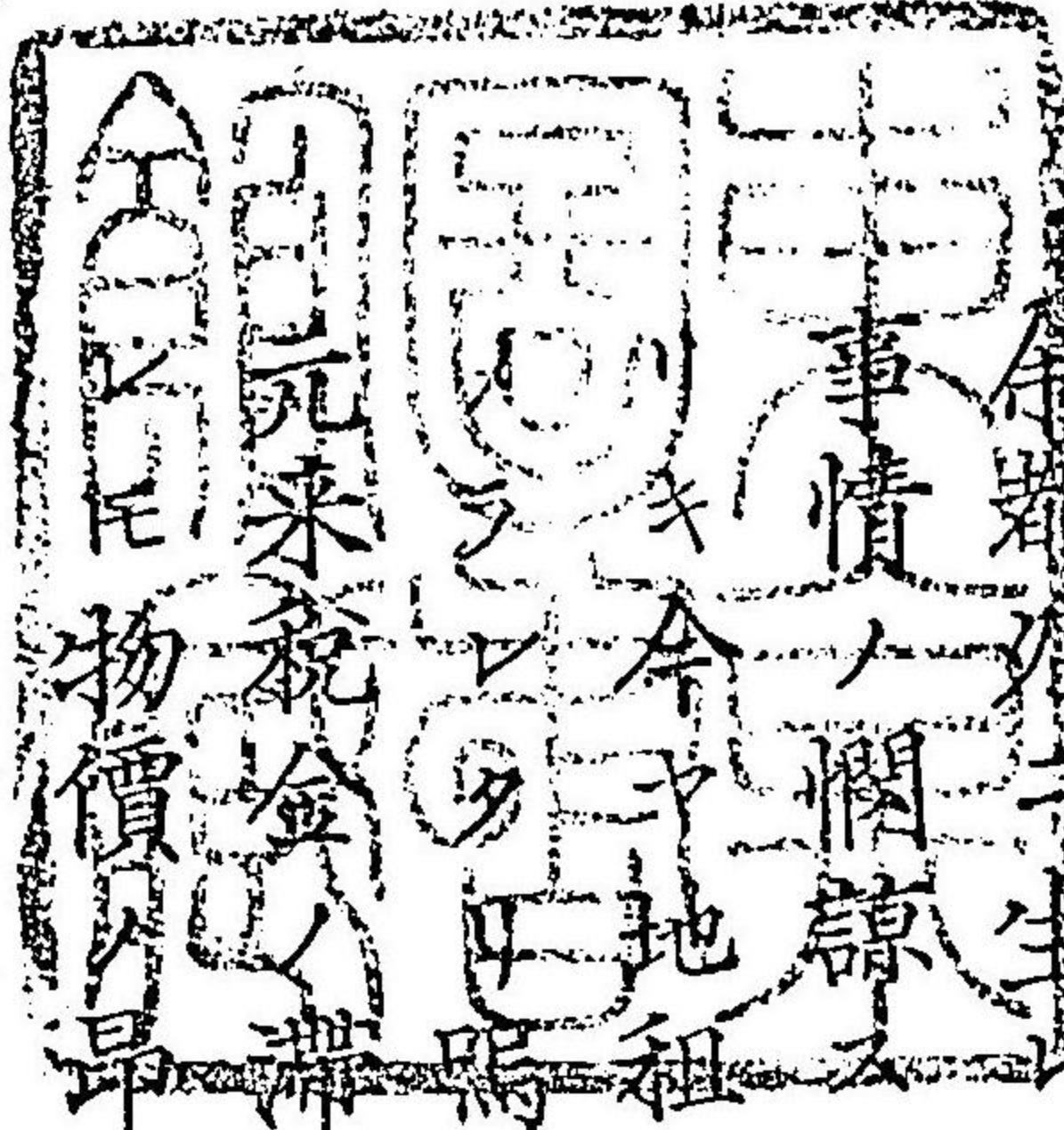
萩原賢之助著述

國稅
地方稅
滯納處分法解

附施行細則

明治二十三年一月

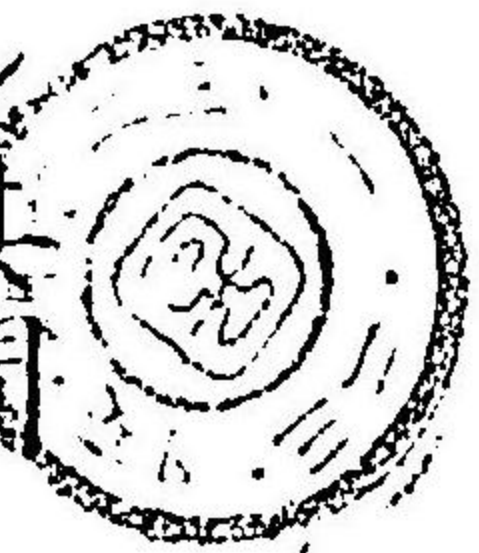
123367
23



序

國稅 地方稅 滯納處分法

余郷外ニ生レテ納稅者ノ實況ヲ見聞スル久シ其間事情ノ懶隳ニヘキモノ多ク稅法ノ改正ヲ望ム切ナキ今ヤ地租ハ輕減セラレ滯納處分法ハ精細ヲ極メ呼我數百萬納稅者ノ幸福若干ソヤ元來稅金ノ滯納ハ納稅者ノ怠慢ニヨルコト勿論ナリ但物價ノ昂低又ハ金融ノ通塞等ニ因リテ已ムヲ得サル情狀ノ其間ニ存スルモノ往々之アリ特ニ我國納稅者ノ多數ヲ占ル農民社會ニ在リテハ作物ノ豐凶ニ因リテ大二稅金ノ完納ニ影響ヲ受ルモノナ



レハ其滞納ヲ以テ直チニ義務ヲ怠ルノ犯則者ト爲
シ假借ナク之ヲ處分スルハ理財家ノ甚タ取ラサル
處ナリ必竟スルニ滞納處分法ノ粗漏ナルハ納稅者
ノ不幸否國家ノ爲メ不利ナリト云フヘシ
今回ノ法律ハ頗ル納稅者ノ權利ヲ鞏固ニセラレタ
リ之ヲ舊法ノ杜撰ナルニ比スレハ理財ニ長シ法理
ニ基キタリ余ハ望ム只當局者ノ之ヲ施行スルニ當
リ誤解ナカラントヲ茲ニ平素ノ婆心ヲ吐キ以テ爲
序ト云爾

明治二十三年初春

著者識

國稅滞納處分法解

緒言

國稅滞納處分法ハ法律第三十二号ヲ以テ地方稅滞納處分法ハ法律第
三十三号ヲ以テ發布セラレタリ之ヲ閱覽スルニ五十餘條ノ多キニ達
シ法理精確理財適實能ク網羅シ盡シタリト云フヘシ其間深奥ノ箇條
無キニシモアラス生ヤ不才未タ法律ノ緒端ヲ窺フニ止マリ素ヨリ著
述ノ力ナシト雖氏書肆ノ求メニ從ヒ法學生ノ任敢テ其難ヲ辭セス專
ラ解疑ト應用トヲ旨トシ逐條説明スヘシ或ハ文章ノ拙劣ナルカ爲メ
意義ノ通セサル處ナキヲ保セス讀者希クハ恕セヨ
次手ニ一言セン舊法ハ僅ニ五六條ニ過キサリシヲ五十四條ニ改正シ

タルトナレハ寧ろ新發セラレタリト云フノ適當ナルヘシ何トナレハ本條中ニ殘レルモノ無ケレハナリ以下舊法ヲモ比較シテ説明スル處アルヘシ

新舊比較

之ヲ賦課シタル財産ヲ公賣シテ徵收スヘシ」トアルヲ新法第三條ハ「其所有財産ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ」ト爲セリ去レハ今後ハ地租滞納ト雖モ其ノ公賣ハ當ニ其ノ土地ノミニ止マラスノ他ノ所有財産ハ皆ナ官ノ差押ヘニ遭フコト、知ルヘシ 舊法ニ「其財産他人ヘ賣買讓與シタル時ハ」云々トアルモ新法ハ更ニ之ヲ規定スルラス何トナレハ納稅義務ハ其ノ財産ニ追隨スルモノナレハ所有權ノ移ル以上ハ義務ノ移ルコト勿論ナレハナリ 又其但書ニ「書入質入

ノ財産ニ」云々トアルヲ新法第二十九條ニハ「質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ收入官吏ハ……ヲ債主ニ通知スヘシ前項ノ場合ニ當リ其ノ債主ニ於テ處分費稅金ヲ完納シタル時ハ其差押ヲ辭クヘシ」トアリテ稅金ノ完納ノミナラス處分費ヲモ拂ハシメタルコト、シ法文ノ一層完備セルヲ見ル 府縣稅民費ニ準用スルト云ヘル舊法ハ其二條ニ營業稅云々トアレトモ新法ハ只タ國稅ニ限リ適用スヘキモノナレハ營業稅ノ事ニハ規定ヲ及ボサス 然レトモ新法十九條ニ「處分費稅金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スル時ハ職業ニ必要ナル器具及材料ノ差押ヘヲ爲サス」トアルヲ見レハ舊法ノ如ク「營業ヲ停止ス」ト云フ嚴則ナキカ如シ 舊法第二條第二項ニ酒類及醬油ノ造石稅云々ノ事アリシモ新法ハ第七條ニ於テ「此ノ種ノ稅

ニ滞納アルトキ其ノ課額定リタル税金ハ未タ納期ニ至ラサルモ滞納ト并セテ之ヲ徴収スヘキ」旨ヲ規定シ其ノ器具公賣ノ事ハ更ラニ規定セス是レ舊法ト違ヒ納稅義務ヲ其ノ課稅品ニ制限セス廣ク納稅者所有財産ニ及ホスモノナルヲ以テナリ 次ニ舊法ハ第三條但書ニ於テ「土地家屋ヲ除キ他ノ財産ニ付先取ノ特權アリ」ト規定セリカ新法ハ第六條ニ於テ「他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス」ト總則ヲ掲ケ其但書ニテ納期限ヨリ一ヶ年前ニ質入書入ヲ爲シタル財産ニ付テハ國庫モ此ノ權利ナキ旨ヲ明言セリ蓋シ舊法ニ比シ尤モ精細丁寧ヲ盡シタルノ一點ナリ 舊法第四條ニハ「地方官ニ於テ處分シ先ツ公賣ニ関スル入費ヲ引去リ……餘剩アレハ之ヲ本人ニ還付ス」トアレトモ新法ハ滞納アレハ先收入官吏ヨリ督促令ヲ發シ五日以内ニ完納

セサレハ地方長官ヨリ差押命令書ヲ發シ五日以内ニ完納セサレハ收入官吏ヨリ公賣告示ヲ爲スト規定セルハ頗ル精細ニ入レリ 而シテ其四十三條ニ「差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尚ホ餘剩アルトキハ之ヲ滞納者ニ還付スヘシ」トアリ 舊法第六條ニ「買受望人無之節ハ」云々トアルヲ新法ハ第四十條ニ於テ「……尚ホ望人ナキカ又ハ其買受價額尚ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其ノ豫定價格ヲ以テ政府ニ買上ケ」云々ト規定セリ 其ノ他舊法ノ漏ス所又タ舊法ノ知ラサル所ハ新法悉ク之ヲ網羅シテ第五十四條ノ多キニ違セリ詳細ノ一ハ各條文ニ付テ說明スヘシ

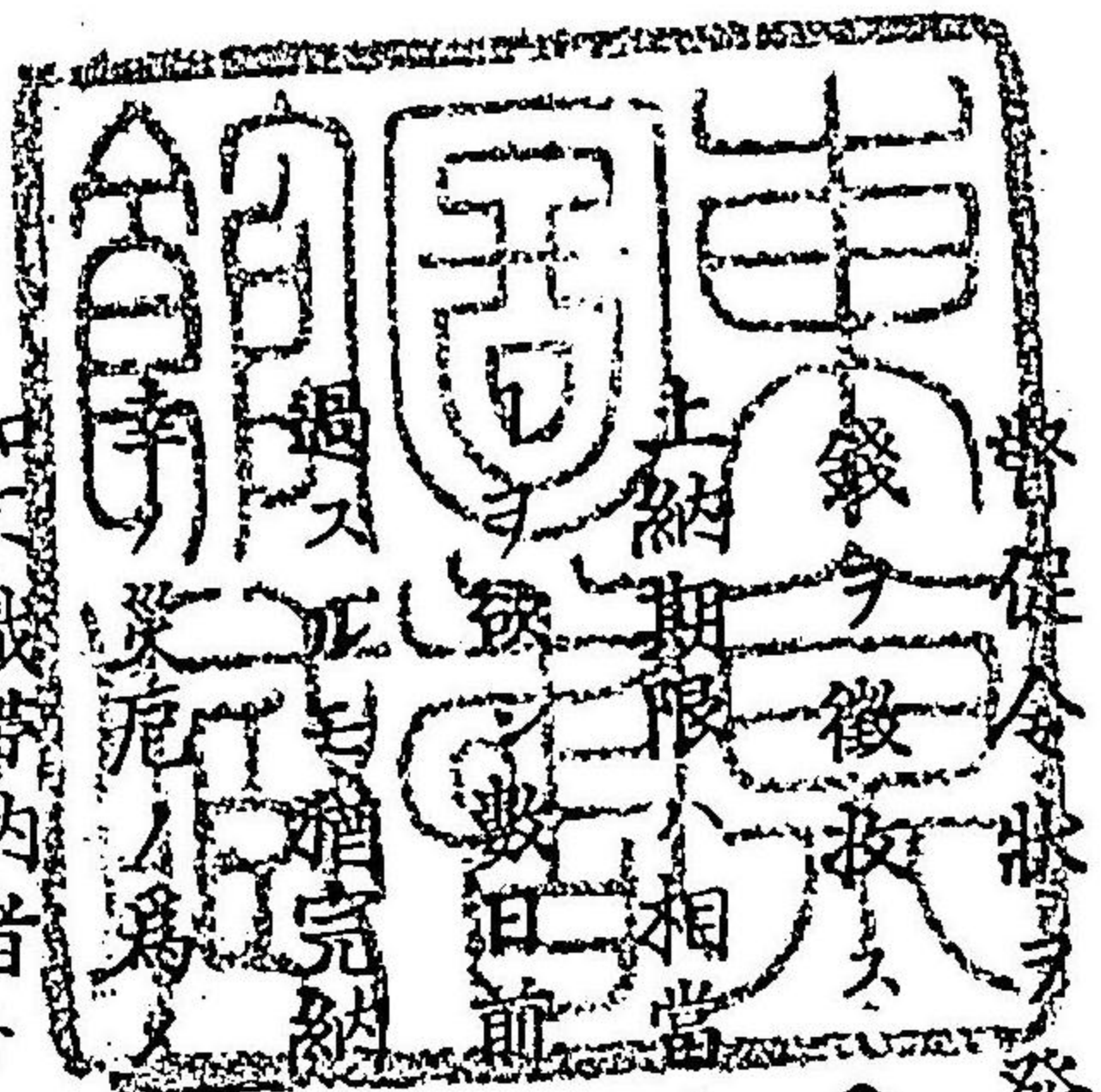
第一章 總則

第一條 國稅ノ滯納ニ係ルモノハ関稅ヲ除クノ外總テ

此法律ニ依テ處分ス

國稅トハ地稅所得稅醬油稅煙草稅印紙稅等ノ者ニシテ即チ國庫ノ
收入トナリ一國政府ヲ維持スルカ爲メ課スル處ノ税金ナリ故ニ納
稅ノ義務アル臣民ハ法律ノ定ムル納期內ニ上納セサルヘカラス若
シ其期限內ニ完納セサル者アルハ以下定ル所ノ五十餘條ノ法律
ニ依テ處分スルモノナリ然レモ之ニ例外ノ者アリ即チ海關稅ニ付
テハ之レ同シク國稅ナレトモ素ト海關稅ハ外國船ノ輸入アル毎ニ
課スル稅ナレハ此法律ノ如キ手續ニ因テ支配スルコトヲ得サルナリ
第二條 國稅ヲ其納期限ヲ過キ完納セサル者アルトキ

ハ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スヘシ



督促令狀ヲ發スルトキハ手数料トシテ一通ニ付金三
錢ヲ徴收スヘシ
納期限ノ相當ノ猶豫ヲ置キ以テ納稅者ヲシテ周章セシメサラシ
テ納期ノ數日前ニ金額及ヒ納期ヲ申達スルモノナレハ其納期ヲ經
過スルモ猶完納セサルモノハ直チニ處分シテ可ナルヘキモ或ハ不
知不識滯納者トナルモノモアルヘシ故ニ此等ノ不幸ナカラシメン

カ爲メ斟酌シテ收入官吏ヨリ督促令狀ヲ發スルコトナセリ

督促令狀トハ所謂催促書ニメ納期ヲ過キ去リタルモ未タ完納セサ
ルニヨリ處分スルト云フコトヲ催告スル書面ナリ此書面ヲ出シタル

後ニアラサレハ収入官吏ハ滞納者トシテ處分スルヲ能ハサルナリ

第三條 滞納者督促令狀ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ税金ヲ完納セサルキハ其所有財産ヲ差押ヘ賣却シテ之ヲ徵收スヘシ

前條ノ督促令狀ヲ受ケタルキハ遅クモ五日以内ニ完納セサルヘカラス若シ五日ヲ經過スルモ完納セサルキハ到底完納ノ見込ナキモノト見做シ其滞納者ノ所有スル財産ヲ差押ヘ之ヲ賣却シ其代價ヲ以テ税金ニ充ツルモノトス

五日トハ令狀ヲ受ケタル日ヲ除キ次日ヨリ五日ヲ計算スルモノト考フ

舊法ニヨルキハ其賦課シタル財産ノミヲ公賣シテ徵收シタリシモ本法ハ其所有財産悉ク差押ヘラル、モノト知ルヘシ例ヘハ地租ヲ滞納シタル場合ニ舊法ニヨレハ其土地ノミ公賣セラレテ之カ税金及ヒ公賣ニ関スル費用ヲ引去リ尚剩餘アルキハ滞納者ニ還付シ不足ナルキハ官府ノ損失トシタリシモ本法ニヨルキハ其土地ノミナラス動産不動産ヲ問ハス悉ク差押ヘテ賣却セラル、ナリ勿論不足アルキハ官府ノ損失ニ歸スヘシ之レ學理上至當ノ規定ナリト云フヘシ

第四條 滞納者ノ納稅義務ハ滞納處分濟ヲ以テ終ルモノトス

之レ尤モ肝要ノ條文ニシテ又一層學理ニ基キタル文意ナリ抑官府ニ於テ種々ノ手數ヲ費シ督促令狀ヲ發シテ差押等ノ手續ヲ

ナス所以ノモノハ必竟税金ヲ徴収センカ爲メナリ故ニ右等ノ手續ヲナスモ未タ以テ滞納者ヲシテ納税ノ義務ヲ免レシメス滞納處分濟ニ至リ始メテ納税ノ義務ヲ免ル、モノナレハ其手續中ハ何時ナリトモ税金ヲ完納スルコトヲ得ルナリ然ルキハ官府ハ其手續ヲ廢止スヘシ勿論官府ニ於テ費シタル差押等ノ費用モ併セテ償却セサルヘカラス

タトヒ殘余アルニモセヨ又ハ不足ナルニモセヨ一旦處分濟トナリタル以上ハ最早納税ノ義務ヲ免レ以後如何ナル富有ノ身トナルモ再ヒ徴収セラル、コトナシ

第五條 滞納者財産ノ價格處分費ヲ償フテ剩餘ヲ得ル見込ナキトキハ差押ヲ爲スコトヲ得ス此場合ニ於テ

モ亦前條ニ同シ

財産ヲ差押ヘ及ヒ償却スル等手續ヲ勞シ費用ヲ要スル所以ノ者ハ必竟税金ヲ徴収センカ爲メナリ然レモ壹圓ノ税金ヲ徴収センカ爲メ貳圓ノ處分費ヲ用シ而シテ財産賣却ノ見込代價壹圓内外ナルカ如キ壹圓ヲ徴収シ得ヘキモ之カ爲メニ貳圓ヲ失ヘ得失相償フ能ハサルヘシ寧ロ壹圓ノ税金ヲ棄ルニ加カシ之レ實ニ舊法ノ夢ニタモ見ル能ハサル處ニシテ寛容ノ規律ト云フヘシ

此場合ニ於テモ處分濟ニ至レハ直チニ納税ノ義務ヲ免レ悉皆官府ノ損失トナルヘシ

第六條 滞納處分費滞納税金ニ付テハ他ノ債主ニ對シ先取權アルモノトス

但滞納シタル税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入
ト爲シタル財産ニ付テハ此限ニ在ラス
税金及税金ヲ不納シタルカ爲メ要シタル處分費用ニ付テハ官府ハ
先取特權アルモノナレハ他ノ債主ニ先チ取得スルモノナリ例ヘハ
滞納者ノ財産代價百圓ニシテ五十圓ノ債主アリ而シテ税金及處分
費合八十圓ナルキハ官府ハ先ニ皆金(八十圓)ヲ取去リ債主ハ其殘
額(二十圓)ヲ得ルニ過キサルノミ故ニ先取權ナルモノハ實ニ強大
ナル収利ナリ斯ル強大ナル無上權ナシハ無限ニ專用スルキハ却テ
弊害ヲ來シ人民ノ權利ハ何時モ定ルヲナキニ至ルヘケレハ之カ制
限ヲ立テ納税期日ヨリ一ヶ年前ニ質入書入ニ取リタル土地ニ付テ
ハ先取セラル、ヲナク鞏固ナルモノナリ。然ラハ滞納者ノ財産ヲ

買受ケタル者ニ付テハ如何 一旦滞納者カ賣渡シタル財産ハ一年
前ニ賣渡シタルニモセヨ昨日賣渡シタルニモセヨ滞納者ノ所有ニ
アラス故ニ差押フルヲ得サルナリ

注意スヘキハ一旦差押トナリタル以後ハ最早勝手ニ賣買スルヲ
得サレハ余ノ云フ處ハ差押ル前ニ買受ケ(登記ヲ經)タルモノナリ

第七條 酒類醬油造石税ニ付滞納處分ヲ爲ストキ其課
額既ニ定マリタル税金ハ未タ其納期ニ至ラサルモ滞
納税金ト併セテ之ヲ徴収スヘシ

醬油酒類造石税ハ其造り高二應シテ課スル處ノ税金ニシテ納税者
自ラ其分限ヲ見定メテナスヘキモノニシテ此税金ヲ滞ルカ如キハ
不信用ノ甚シキモノナリ加之此營業者ハ實驗上脱税等多ク且ツ徴

取ノ方法困難ニシテ尤モ多額ノ費用ヲ要スルモノナレハ造石税滞納ニ付處分スルキハ其當時未タ納期ナラサルモ已ニ金額ノ定リタル課税アルキハ期限ニ拘ラス同時ニ徴収スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ

第八條 滞納處分費ハ左ニ掲クル費目ニシテ督促令狀手数料ヲ除クノ外實際支辨スルモノヲ云フ

- 第一 督促令狀手数料
- 第二 差押調書及賣却調書調製費
- 第三 滞納者又ハ其債主若クハ負債者ニ對スル通信費

第四 評價人看守人又ハ競賣人ノ給料

第五 差押物件ノ運搬保管又ハ賣却ニ要スル諸費

第六 公告費

第七 訴訟ニ要スル諸費

本條ハ滞納處分費ノ項目ヲ掲ルモノニシテ滞納者ハ右ノ費用ヲ税金ノ外ニ納ルモノナリ此等ハ皆官府ニ於テ實際支拂ヒタル者ニ限ル只督促令狀ノ手数料ハ第二條ニ於テ三錢ト限定シアレハ之ハ何時モ此定額ニテ可ナルヘキモ其他ハ何程要スルヤ必ス異同アルヘシ就中第七項ノ如キ納税ト納税者ノ如何ニ因リテ訴訟ナク落着スヘシト雖モ若シ訴訟ノ起リタルキハ其費用ノ如キハ隨分多額ニ上ルコトアルヘシ

第九條 滞納者ニ於テ賣却決行ノ前日マテニ處分費税

金ヲ完納スルトキハ其財産ノ差押ヲ解クヘシ

第三者ヨリ滞納者ノ爲メニ前項ノ金額ヲ代納シタルトキ亦同シ

第四條ニ於テ説示スルカ如ク滞納處分濟ニ至ラサル間ハ未タ納税ノ義務アルモノナレハ勿論差押ヘタル財産ヲ賣却スル前ニハ税金及處分費ヲ完納スルヲ得ルモノナリ然レ已ニ賣却シタル以上ハ完納スルモ賣却シタル財産ヲ取戻スヲ得ス未タ賣却セサル前日迄ニ税金及處分費ヲ完納スルキハ官府ノ目的ハ達シタルモノナレハ強チ財産ヲ賣却スルヲ要セス因テ其差押ヲ解クヘシ滞納者完納セスシテ第三者ヨリ代納シタルキモ亦有効ニシテ其差押ヲ解カル、一滞納者ノ完納シタルト同一ナリ例ヘハ質入又ハ書入トナリ

タル地所アリ質取主書入債主ニ於テ其地所ヲ保有センヲ欲シ代納シタル場合ノ如シ

第十條 滞納處分執行ニ関シ不服アリテ出訴スル者アルモ其處分ノ執行ヲ停止セス

滞納處分執行ニ関シ例ヘハ收入官吏差押ヲナサントシ又ハ賣却ヲナサントシ或ハ賣却代價ヲ配當スルニ際シ滞納者又ハ其他ノ者ヨリ不服ヲ申立テ出訴スルモ其滞納處分ヲ停止スルヲナシ或ハ不服ノ申立至當ニシテ滞納處分ニ幾分力變更ヲ求スヲアルヘキモ實ニ稀ニシテ出訴者アルカ爲メ處分ヲ中止スルキハ時日ヲ延引シ甚シキハ損害ヲ受ルヲアルヘケレハ引續キ處分スルモノナリ

第十一條 收入官吏ノ收入管轄地外ニ於テ滞納處分ヲ

爲スコトヲ要スルトキハ收入官吏ヨリ其處分ヲ爲ス
ヘキ地ノ收入官吏ニ之ヲ屬託スルコトヲ得但他ノ地
方管内ニ係ルトキハ收入官吏ハ其所屬長官ヲ經テ屬
託ノ手續ヲ爲スモノトス

滞納者管轄地外ニアルキハ收入官吏ハ態々出張シテ處分スルノ勞
ヲ採ラス其地ノ收入官吏ニ屬託スルヲ得ル旨ヲ定ムルモノナリ

第二章 差押

第十二條 財産差押ヲ爲ストキハ地方長官ヨリ差押命

令書ヲ發シ收入官吏ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

財産ヲ差押ヘラル、キハ自己ノ財産ト雖モ自ラ左右スルヲ得ス
所有權ハ自由ナリトノ大原則ヲ矯屈スルモノニシテ實ニ容易ナラ
サルヲナレハ從テ丁重ニ取扱ヒ無益ノ手續ヲ掛ケ不正ノ損害ヲ蒙
ラシメサル様注意セサルヘカラス故ニ收入官吏ノ獨斷ニ委セス地
方長官即チ府縣知事モリ差押命令書ヲ發シ該命令書ヲ携ヘテ收入
官吏之ヲ施行スルモノト定メタル以所ナリ

第十三條 財産差押ヲ爲ストキハ處分費税金ニ充ル金
額ヲ目途トシ通貨ヲ先ニシ次ニ左ノ順序ニ從ヒ其物

件ノ賣却代價ヲ見積リ逐次差押ヲ爲スヘシ但第一第二第三ノ物件ハ事宜ニ依リ順序ニ拘ハラズ之ヲ差押フルヲ得又物件ノ分割スヘカラサルモノ及分割スレハ價值ヲ減スヘシト認ムルモノハ其全部ヲ差押フルヲ得

第一 地金銀、公債証書、株券、手形、其他ノ證券

第二 農業其他營業上ノ生産物、製造物及賣品

第三 第一第二ニ掲ケサル動産及一月以内ニ收穫シ得ヘキ土地ノ生産物

第四 債主權

第五 不動産

第六 質入書入ト爲シタル財産但質屋營業者ニ質入シタル動産ヲ除ク

本條ハ差押ヲナス財産ノ順序ヲ定メタルモノナリ

抑滞納者ノ財産差押ヲナス所以ノモノハ必竟滞納處分費及ヒ税金ヲ徴収センカ爲メナリ故ニ少額ノ金圓ヲ徴収センカ爲メ徒ラニ多額ノ財産ヲ差押ヘテ苦痛セシムルモノニアラス故ニ例ヘハ税金及ヒ處分費合金百圓ノ見込ナルモハ百圓ニ當ルタケノ物件ヲ見積リ差押ヲナスモノナリ

差押ヲナスノ順序ハ人情ニ基キ貨幣ヲ先ニシ不足アルモハ第一第二第三ト順及スルモノトス然レモ第一第二第三ノ物件ノ如キハ或ハ人ニ因テ必要ノ度ヲ異ニスルヲアリ或ハ時ニ因テ價ノ度ヲ異ニ

スルコトアリ其他事情ニヨリ収入官吏ニ於テ順序ヲ代ヘテ差押ルコトアルナリ。又例ヘハ製造場ニ於ケル製造器械ノ如キ別々ニ分離スレハ價ヲ減スルモノ或ハ分離スル能ハサルモノハ其儘製造場及器械ヲ同時ニ差押ルコトヲ得ルナリ

第三ニアル生産物トハ例ヘハ十月ニ至レハ成熟シテ刈取ルコトヲ得ヘキ稻ヲ九月ニ差押ルコトヲ得ルノ旨ヲ定メタルモノニシテ即チ差押ヘヨリ賣却引渡シマテハ大概一ヶ月位ノ日數ヲ要スルモノト豫認シタルモノナレハ一ヶ月以上ヲ經過セサレハ收獲スル能ハサル生産物ハ差押ルコトヲ得サルナリ

第六質入書入シタル財産ト雖モ素ヨリ滞納者ノ所有ナレハ差押ルコトヲ得ルハ勿論ナレモ營業上質入シタル動産即チ衣類器具ノ如キハ期限ヲ經過スレハ當然質屋ノ所有ニ歸スルモノニシテ之ヲ差押ルハ營業ノ旨趣ニ反スルヲ以テ保護シタルナリ

第十四條 主タル物件ノ差押ハ其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ニモ其効力ヲ及ホスモノトス

從ハ主ニ從フトハ法律上ノ一大原則ナリ必竟此大原則ヲ適用シタルモノニシテ普通ノ道理ヨリ見ルモ主人ハ從僕ヲ制聯スルカ如キ主ハ常ニ從ヲ伴フモノナリ故ニ主タル物件ヲ差押ヘタルモ只其物件ヨリ生スル利益又ハ生産物ヲ一々指名シテ差押ヘサルモ只々主物ヲ差押ヘタルノミニテ其中ニ利益又ハ生産物ハ包含シテ差押ヘラレ居ルモノトス例ヘハ人ニ貸付ケアル家屋ヲ差押ヘタルハ從テ其屋賃ヲモ差押ヘタルモノトナルノ類之ナリ

第十五條 滯納處分着手以前ニ裁判執行ノ爲メニ滯納者ノ財産一部ヲ差押ヘラレタル場合ニ於テハ其殘部ヲ差押フヘシ其賣却代價處分費税金ニ對シ不足ナルヘシト認ムルトキハ該裁判所ニ照會シテ其不足金額ヲ請求スヘシ

滯納處分ヲナス以前已ニ滯納者ハ他人ヨリ出訴セラレテ其財産ノ一部ヲ差押ヘラレ居ルキハ收入官吏ハ其殘部ヲ差押フルモノナリ然レモ其殘部ノ代價ヲ以テ税金及處分費ヲ償フニ足ラスト思フキハ收入官吏ハ其裁判所ニ申出テ前差押ヘニナリタル財産ノ中ヨリ取得ルナリ此ニ付テハ第六條ニアル如ク先取ノ特權ヲ以テスルモノナレハ前ニ出訴シテ差押ヘタル人ヨリ先ニ取去ルヲ得ルナリ

右ハ滯納處分ヲナス前ニ他人カ一部ヲ差押ヘタル場合ナレモ滯納者ノ財産全部ヲ差押ヘタルキハ如何 此キハ收入官吏ハ別ニ差押ヲナスヲナク只裁判所ニ請求シテ他人カ差押ヘタル財産中ヨリ先取スルヲ得ルナリ

第十六條 第十三條第一第二第三ノ物件ニシテ滯納者所有ノ家屋倉庫其他滯納者所用ノ場所ニ現在スルモノハ滯納者ノ所有ニ非サル旨ヲ申告スト雖モ其證據分明ナラサルトキハ之ヲ差押フルヲ得

第十三條第一項ハ地金銀株券ノ類第二項ハ生産物賣品ノ類第三項ハ動産ノ類ノ如キ皆其所有主ノ判然セサル物件ナリ故ニ滯納者ノ手ニアル以上ハ滯納者ノ所有ト見ナスヨリ外ナシ之ヲ人々ノ自由

ニ我ノ所有ナリト唱ヒテ傍ヨリ持去ラル、キハ到底徴収ノ目的ヲ達スル覺束ナシ然レモ滞納者ノ所有ニアラサルヲ判然ナルキハ素ヨリ他人ノ財産ヲ差押ルヲ得サレハ其證據分明ナルト否トニ因テ區別ヲ立ルモノニシテ決シテ只口頭ニ申立ルノミニテハ差押ヲ許スヲ能ハサルナリ例ヘハ公債証書ニ他人ノ記名アリテ一時預リタル証アルカ如キ素ヨリ證據分明ナレハ差押ルヲ得ス

第十三條第四項以下ハ皆所有主ノ判然ナルモノナレハ此等ノ規定ヲ要セサルナリ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ差押物件ノ取扱ヲ請求セントスル者ハ賣却決行ノ五日マテニ所有主タルノ證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ其取扱ヲ請求スヘシ

前條ノ場合ニ於テ一旦差押ヘラレタル以上ハ遅クトモ賣却シタル日ヨリ五日目迄ニ滞納者ノ所有物ニアラサル證據ヲ具ヘテ收入官吏ニ取戻ヲ請求セサレハタトヒ充分所有主タルノ證據分明ナリトモ取戻スヲ得サルニ至ル故ニ滞納處分法ニヨリ入札又ハ競賣ヲ以テ買受ケタルモノハ買受ケタル日ヨリ五日ヲ經過スレハ最早他人ヨリ取戻サル、心配ナキモノナリ

第十八條 左ニ掲クル物件ハ之ヲ差押フルヲ得ス

第一 滞納者及其同居家族ノ生活上缺クヘカラサル衣服、寢具、家具及厨具

第二 滞納者及其同居家族ノ人口ヲ量リ三十日間ノ生活ニ必要ナル食料及薪炭

第三 實印

第四 祭祀ニ必要ナル物品及石碑、墓地

第五 滯納者ノ家ニ必要ナル系譜、日記、書付類

第六 滯納者及其同居家族ノ身分ニ必要ナル制服、祭

服、法衣

第七 勲章其他名譽ノ章票

第八 修學上必要ナル教科書、器具

第九 發明ニ係ル未定ノ物品、未タ發行セサル著譯書

類

第十 滯納者ノ同居家族ノ財産ニシテ一箇年前ニ官

簿ニ記載シタルモノ若クハ一箇年前ニ記名シ

タル公債證書、株券、手形其他ノ證券但所得稅ニ
關シテハ此限ニ在ラス

盡スヘキ義務ヲ欠キタルモノナレハ之ヲシテ安樂ニ生活セシムヘ
キ理アラス然レモ之ヲシテ凍饑セシムルハ法理道義ノ許サ、ル所
ナレハ生活スルカ爲メ欠クヘカラサル物件ニ付テハ差押ルヲ得
サルナリ以下所要ノ点ヲ説明セン

第一項衣服家具ノ如キハ人身ニ附着シテ生活上欠クヘカラサルモ
ノニシテ謂ハ、身体ト同一体ヲナスモノナリ故ニ此等ヲ差押ルヲ
得ス茲ニ注意スヘキハ生活上欠クヘカラサル云々トアルヲ以テ
衣服寢具ノ如キハ悉ク差押ルヲ得スト云フニアラス着シ居ル服
ハ剝取ルヲ得サレモ余分ハ差押ルヲ得ルナリ衣服ニ付テハ身

代限處分法ニハ二通トアリ茲ニハ生活上欠クヘカラサル云々ト漠然タレモ寢具ハ一重ナルヘキモ衣服ハ同シク二通タケハ欠クヘカラストシテ差押ヘサルノ意ナリト思フ

第二項モ亦第一項ト同精神ニテ生活ニ欠クヘカラサル物件ニシテ三十日間ノ食料アレハ其中方法モ立ツヘシト推測シテ規定シタルナリ

第八項第九項ハ教育技藝ノ進歩ヲ妨ケサル政略上ヨリ出テタルモノナリ

第十項ハ矢張り第六條ノ精神ト同シク一ヶ年前ニ家族ノ名義ニ記載シアルモノナレハ詐偽ヲ以テナシタルモノトハ見ラレサルヲ以テナリ然レモ只私ニ記シタル書類ニテハ一年前ニモ二年前ニモ其時相對ニテ自由ニ偽作スルヲ得ルモノナレハ之ニ効力ヲ與ヘス官簿ニ一年前ニ記載アルモノニ限ル公債手形ノ如キモ相對ニ作ル能ハサルモノナレハ一年前ニ記名シアルモノナレハ此亦差押ルヲ得ス但シ所得税ノ滞納ニ至テハタトヒ一年前ニ記名シアルモノト雖モ差押ヘラル、モノナリ

第十九條 左ニ掲クル物件ハ他ニ處分費税金ヲ償フニ足ルヘキ物件存在スルトキハ滞納者ノ撰擇ニ依リ差押ヲ爲サ、ルモノトス

第一 農業ニ必要ナル器具、種子、肥料及牛馬並ニ其飼料

第二 職業ニ必要ナル器具及材料

農業又ハ職業ニ必要ナル道具或ハ種子ノ如キハ此又將來生活上ニ
 欠クヘカラサルモノニシテ前條ニ掲ケアル物品ハ直接今日欠クヘ
 カラサル物品ニシテ本條ニアルハ其次ニ采ルモノナリ故ニ他ニ財
 産アルキハ滯納者ノ望ミニ從ヒ右ノ物件ハ差押ヘサルモノナリ然
 レモ滯納者ニ於テ別段申出テサレハ收入官吏ハ此等モ第十三條ノ
 順序ニ從ヒ差押フヘシ又例ヒ滯納者ヨリ申出ルモ他ニ充分税金處
 分費ヲ償フタケノ物品アラサレハ第十八條ノ物品ト異リ差押ヘラ
 ル、モノナリ

第二十條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スタメ滯納者ノ家
 屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルコトヲ得
 滯納者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ物件ヲ藏匿スト

思料スルトキハ收入官吏其場所ニ立入り取調ヲ爲ス
 コトヲ得

收入官吏滯納者又ハ他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立
 入ルハ日出ヨリ日没マテノ時間ニ限ルヘシ
 人民ノ家屋ハ帝王ノ城壁ナリ妄リニ侵スヘカラス刑法ニモ正條ヲ
 設ケテ妄リニ家宅ニ侵入スルモノヲ罰セリ故ニ家主ノ許シナキキ
 ハ何ハモ入ルコトヲ得サルナリ收入官吏ニシテ其原則ニ拘束セラ
 ル、キハ得テ其職務ヲ行フ能ハサルニ至ル何トナレハ滯納者即チ家
 主ハ拒ンテ入レサルヘシ然ルキハ收入官吏ハ入ルコトヲ得スシテ必
 ス差押ヲナスコト能ハサルヘシ故ニ此原則ニ從ハスシテ收入官吏ハ
 何時ニテモ家主ノ許諾ナクトモ立入ルコトヲ得ルナリ此素ヨリ至當

ノトニシテ執行官吏ノ自ラ有スヘキ性質ト云フヘシ
 若シ他人ノ家ニ隠シ有ルト思フキハ收入官吏ハ其家ニ立入りテ取
 調ヲナスコトヲ得此等ハ事ニ因レハ刑罰ニ觸ル、ノ所爲ナレハ素ヨ
 リ滞納者ノ家ニアラサルモ立入ルヲ得ルナリ
 此等滞納者又ハ他人ノ家屋其他ノ場所ニ立入ルハ原則ノ例外ナレ
 ハ制限ナク立入ラシムルキハ實ニ安寧ヲ妨害スルニ至レハ晝間
 ニ限ルモノトス夜間ニ立入ルカ如キハ實ニ危険ニシテ且ツ安眠ヲ
 妨害スルモノナレハ若シ日没後立入ラントスルキハ腕カヲ以テモ
 拒ムコトヲ得ヘシ

第二十一條 收入官吏滞納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ
 立入ルトキハ滞納者若クハ其同居家族他人ノ家屋倉
 庫其他ノ場所ニ立入ルトキハ其所用者若クハ其同居
 家族ヲシテ立會ハシムヘシ
 滞納者又ハ所用者及其同居家族トモ不在ナルトキハ
 隣佑一名以上又ハ市町村若クハ警察ノ吏員ヲシテ立
 會ハシムヘシ

右家屋其他ノ場所ニ立入ルキハ必ス本人若クハ同居家族ノ立會ヲ
 要スルモノナリ若シ右等ノ一人一人モ居ラサルキハ隣佑一人以上又
 ハ市町村等ノ吏員ナリ何レカ一人ヲ立會ハシムルモノナリ何人カ
 ノ立會ナクシテ收入官吏只一人ニテ立入り爲シタル差押ハ無効ニ
 シテ滞納者其他ノ者ハ其取消ヲ求ムルコトヲ得ルナリ又收入官吏ハ
 再ヒ正當ノ手續ヲ履ンテ差押ルニ至ルヘシ

第二十二條 收入官吏ハ財産差押ヲ爲スニ當リ門戸倉庫房室及筐匣等ノ閉鎖シアルトキハ之ヲ開カシメ又ハ自ラ之ヲ開クコトヲ得

右差押ヲナスニ當リ戸ヲ閉テ錠前ヲ掛ケアルモノハ收入官吏ハ之ヲ開クヲ得又ハ開カシムルヲ得ルナリ倉又ハ箱ノ如キ開イテ之ヲ取調ヘサレハ其中ニアル物品ヲ漏ラスヘケレハ強制シテモ開クヲ得ルナリ

第二十三條 收入官吏財産差押ヲ爲ストキハ差押命令書ヲ携帯シ滞納者若クハ立會人ノ求ニ依リ之レヲ示スヘシ

右差押ヲナスニハ府縣知事ヨリ受取リタル差押命令書ヲ携帯シテ請求ニヨリテハ之ヲ示スヘシ然ラサレハ果シテ正當ノ差押ナルヤヲ知ル能ハサレハナリ

第二十四條 財産ヲ差押ヘタルトキハ收入官吏其差押調書ヲ作り立會人ト共ニ署名捺印シ其謄本ヲ立會人ニ交付スヘシ

差押ヲナシタルキハ其場ニ於テ差押調書ヲ作り之ニ立會シタル(滞納者又ハ警察吏其他ノ)者ト共ニ署名捺印シ其寫ヲ立會人ニ渡し置クモノナリ

調書トハ差押ヘタル手續及ヒ目錄等ヲ記シタル書類ナリ

第二十五條 通貨及第十三條第一ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ封印シテ其地ノ市町村長ニ預ケ第十三條第二

以下ノ物件ヲ差押ヘタルトキハ其目錄ヲ添テ其地ノ市町村長ニ預ケ證書ヲ取ルヘシ

第十三條第一項第二項ノ物件ハ融通運轉ノ容易ナルモノナレハ其場ニ置クハ危険ナルヲ以テ之ヲ差押ヘタルハ市町村長ニ預ケ預リ證書ヲ收入官吏ニ於テ取リ置クナリ就中第一項ノ物件ハ物小ニシテ融通自在ナレハ封印シテ預ルナリ

第二十六條 左ノ場合ニ於テハ滞納者又ハ其同居家族ヲシテ差押物件ノ保管ヲ爲サシムルコトヲ得

第一 收入官吏ニ於テ必要ト認ムルトキ

第二 運搬ニ困難ナルトキ又ハ多額ノ運搬費ヲ要スルトキ

此場合ニ於テハ封印又ハ其他ノ方法ニ依リ差押物件タルコトヲ明ニスヘシ又必要ナル場合ニ於テハ看守人ヲ置クヘシ

財産ヲ差押ヘタル以上ハ最早其滞納者ノ自由ニ使用運轉スルヲ得サル様ニスヘシ然ラサレハ差押ハ何ノ効ナキニ至ル故ニ看守人ヲ附ケ置クカ又ハ他所ニ運搬シテ確カナル人ニ預ルカ其物件ノ紛レサル様ニセサルヘカラス然レモ如此スルハ費用ヲ要スルモノニシテ不幸ナル滞納者ヲシテ益困難ノ地位ニ陥ラシムルモノナレハ收入官吏ハ其場合ト人物トニヨリ胸算ヲ以テ滞納者又ハ其同居家族ニ預ケ置クヲ得ルナリ

第一種々ノ事情ニヨリ其儘滞納者ニ預ケ置クモ心配ナキモノト

認ルキ

四十二

第二其量重大ナル物品ニシテ余リ紛レサルモノナレハ運搬ノ費用ヲ省クカ爲メ此又滞納者ニ保管セシムルヲ得ルナリ

此等ノ場合ニ於テハ堅ク封印又ハ繩メ等ヲナシテ成ルタケ紛レサル様ニナスヘシ

第二十七條 債主權ヲ差押ヘタル場合ニ於テハ収入官吏ヨリ負債者ニ對シ差押ノ通知ヲ爲スヘシ

負債者前項ノ通知ヲ受ケタル後滞納者ニ對シ其義務ヲ履行シタルトキハ其履行ノ効ナキモノトス

債主權トハ貸金賣掛代金ノ如キ他人ヨリ金圓ヲ受取ルノ權利ヲ云フ故ニ此等ノ權利ヲ差押ヘタルキハ其負債主例ヘハ借主ニ其差押

ヘタル旨ヲ通知シテ其拂方ヲ差止メサルヘカラス然ラサレハ勞シテ差押ルモ知ラスシテ借主ハ貸主即チ滞納者ニ支拂フアレハナリ差押ノ通知ナキキハ貸主ヘ拂フハ借主當然ノ義務ナレハ其支拂ハ有効ニシテ差押ハ何ノ要ナキモノトナルヘシ然レモ一旦通知シタル以上ハ貸主ヨリ如何ニ催促スルモ支拂スルヲ得ス若シ通知書ヲ受取リナカラ貸主ニ支拂ヲナスモ無効ニシテ再ヒ収入官吏ニ支拂ハサルヘカラス之レ亦當然ノ事ナリトス

第二十八條 不動産船舶ヲ差押ヘタルトキハ収入官吏

ハ所轄登記所ニ照會シテ差押ノ記入ヲ受クヘシ
不動産船舶ノ賣買移轉其他質入書入等ハ登記ヲ以テ証トスルモノナレハ収入官吏ニ於テ差押ヲナスモ其差押トナリタルヲカ登記

四十三

簿ニナキ以上ハ人或ハ買取(質取)スルコトニ至ルヘシ然スルモ登記
ナケレハコソ買受(質取)タルモノナレハ収入官吏ノ差押ハ無効ト
ナルヘシ故ニ本條ニ於テ収入官吏ハ登記所ニ照會シテ差押ノ記入
ヲナスヘキモノト定メタルナリ

質入ニ付テハ無論納期ヨリ一年後ナレハ質取主ノ損害ニ歸スヘシ
ト雖モ若シ収入官吏ノ過失ヨリ差押ヲナ、サリシニヨリ質取シタ
ルモノナレハ収入官吏ニ損害ヲ請求シ得ルノ理ナリ

第二十九條 質入書入ト爲シタル財産ヲ差押ヘタル場
合ニ於テハ収入官吏ハ差押物件處分費、税金額及賣却
決行ノ期日ヲ其債主ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ當リ其債主ニ於テ處分費税金ヲ完納シ

タルトキハ其差押ヲ解クヘシ

質入書入トナリタル財産ヲ差押ヘラレタルキハ債主ハ滞納者ト共
ニ利害ノ關係ヲ有スルモノナレハ収入官吏ハ差押物件ト處分費及
ヒ税金ノ額ト賣却決行ノ日トヲ通知セサルヘカラス此債主ハ納期
ヨリ一年前ニ質入書入ニ取リタルモノト一年後ニ取リルモノトニ
別ナク通知スルナリ債主ハ通知ヲ受ケテ處分費税金ヲ自ラ完納ス
ルノ利益ナリト思フキハ第九條ニヨリ代納シテ處分ヲ免ル、コトヲ
得ルナリ

第三章 賣却

第三十條 財産差押ノ手續ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ其翌日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲ爲スヘシ

賣却ノ公告ハ左ノ場所ニ揭示シテ三日以上之レヲ爲スヘシ

第一 課税地ノ郡市役所及區役所若クハ町村役場ノ揭示場

第二 物件所在ノ場所
賣却物件ノ價多額ナルカ又ハ滞納者ノ請求アルカ又ハ收入官吏必要ト認ムル場合ニ於テハ前項ニ掲クル

場所ノ外近傍人民群集地ニ揭示シ又ハ其ノ地方ノ新聞紙ニ其要件ヲ公告スルヲアルヘシ

財産差押ノ「タル前」已ニ説明セシ如ク重キ「ナレハ」徒ラ二日ヲ延スハ諸方ノ迷惑ナレハ差押ヲナシタル次日ヨリ三日以後五日以内ニ賣却公告ノ手續ヲナサ、ルヘカラス此賣却ノ公告ハ納税ヲ取扱フ處ノ役所又ハ役場ノ揭示場且ツ其賣却スル物件ノアル場所ニ三日以上揭示シテ廣ク望人ヲ募ルヘシ

之ハ通常ノ場合ナレモ若シ代價高貴ナル物件ナルモ其甚タ少ク望人アルモ相場ノ合ハサル等ノ恐レアレハ第一第二ノ場所ニ揭示スルノミナラス尚市場興行場等ノ如キ人民ノ群集スル地ニ揭示シ又ハ新聞紙ニ廣告シテ成タケ相當ノ價ニ賣却スルヲ務ムヘ

シ又價ノ多額ナルモノニアラサルモ滞納者ノ望ニヨリ又ハ收入官
吏ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ成タケ諸方ニ揭示スヘシ

第三十一條 差押物件ハ入札若クハ競賣ノ方法ヲ以テ
之ヲ公賣スルモノトス但法律規則ニ依リ取扱ニ制限
アル物件ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ物件及豫定總價格一圓未満ノ差押物件ハ
公賣ニ付セス評價ヲ以テ之ヲ賣却スルヲ得
差押ヘタル物件ヲ賣却スルニ二法アリ

第一 公賣

第二 評價

第一公賣トハ數日間公告揭示シテ廣ク公衆ノ望人ヲ集メ高價ノ者

ニ賣渡スナリ之レ尤モ完全ノ賣買法ニシテ大抵此方法ニ因テ賣却
セラル、ナリ

第二評價ヲ以テ賣却スルトハ所謂自利ナルモノニ相場ヲ履マシメ
其場ニテ手易ク賣却スルモノナリ故ニ此方法ニ因テ賣却スルハ
例外ニシテ收入官吏ノ豫定シタル財産ノ總代金一圓以下ノモノト
法律規則ニヨリ取扱ニ制限アル物件ニ限ルモノトス

一圓以下ノ物件ノ如キ本式ニヨリ公賣スルハ賣却費用ニモ足ラ
サルニ至ルヘシ故ニ面倒ナルヲセス直チニ賣却スルトナセリ
又取扱ニ制限アル物件トハ藥劑彈藥ノ如キ官許ノ者ニアラサレハ
買受ルヲ得ス故ニ公賣スルモ望人數多アリテ競争賣買スルヲ得
ルカ如キ品ニアラサレハ此評價人ヲシテ相場ヲ定メシメ此等買受

ルヲ得ル能力者ニ賣却スルモノナリ
公賣スルニ又二法アリ

第一 入札

第二 競賣

第一入札トハ望人ヲシテ物件及其代價ヲ書面ニ認メテ差出サシメ
之ヲ期日ニ開札シテ高價ノモノニ賣却スルナリ之レ尤モ丁重ノ仕
方ナレハ不動産船舶ノ如キ貴重ノ物件ハ必ス此方法ニ因テ賣却セ
サルヘカラス

第二競賣トハ期日ヲ定メテ數多ノ望人ヲ集メ其場ニテ口頭ニテ相
場ヲ云ハシメ高價ノ者ニ賣却スルヲ云フ

此等ノ方法ニヨリ賣却スルモノナレハ舊法ノ如キ只入札ノミニテ

ナサシムルカ如キ窮屈ナルモノニアラス其物件ト其價トニヨリ成
タケ高ク賣ル様務メテ入費ヲ掛ケサル様ニ分定シタルモノナリ

第三十二條

差押物件ヲ賣却セントスルトキハ收入官
吏ニ於テ其物件ノ價格ヲ豫定シ之ヲ封書トシ入札若
クハ競賣ノ場所ニ置クヘシ

本條ハ尤モ舊公賣處分規則ヲ改メタル点ナリ舊法ニテハ收入官吏
ノ見込豫定ハナク只人望ノ買取代價次第ニテ賣渡シタルモノナレ
ハ滯納者ノ損害ハ云フニ忍ヒサルヲ往々アリタリ此害ヲ防ンカ爲
メ公賣スル前ニ收入官吏ニ於テ價格豫定表ナルモノヲ作り之ヲ封
書トシテ公賣ノ場所ニ置クトナセリ價格豫定表ノ必要ハ後ニ述
ヘン

第三十三條 賣却ハ差押物件所在ノ市町村内ニ於テ之ヲ爲スヘシ但收入官吏ニ於テ必要ナリト認ムルキハ他ノ地ニ於テ之ヲ賣却スルコトヲ得

賣却スルハ其物件ノ所在地ニ於テナスモノトス然レモ收入官吏ニ於テ他ノ市町村ニ於テ賣却スルノ必要アリト認ムルキ例ヘハ山村ニ於テ船舶ヲ差押ヘタルキハ近傍ノ水村ニ於テ賣却スルコトヲ得ルノ類之ナリ

第三十四條 滞納者及賣却ヲ爲ス地方ノ稅務ニ関スル官吏雇員ハ直接ト間接トヲ問ハス其賣却物件ヲ買受ルコトヲ得ス

裁判官ハ己レニ掛ル事件ヲ自ラ裁判スルコトヲ得ストハ必竟自己ノ

都合ヲ斗リ不正ノ裁判アルヘケレハナリ加之自然信用ヲ失スルニ至ルヘシ收入官吏ハ高價ニ賣ルコトヲ務ムヘキ人ナルニ自ラ之ヲ買受ルキハ裁判官カ自ラ自己ノコトヲ裁判スルト同一ニテ到底公平ノ處分ハ望ムヘカラサルニ至ル故ニ之ヲ禁シタルナリ獨リ賣却ヲ取扱フ收稅官吏ノミナラス其地方ノ收稅官及收稅雇員ハ何人モ買受ルコトヲ得サルナリ

間接ニ買受ルコトヲ得ストハ例ヘハ甲收稅官カ乙農ノ名ヲ借りテ買受ルカ如キ名義ハ他人ナレモ其實收稅官吏ノ買受ルモノヲ云フ

賣却地方ノ稅務員トハ例ヘハ東京府内ニ於テ滞納公賣者アリタルキハ府廳及市郡役所ニ奉職スル收稅員ヲ云フナリ

務ヲ認メサルトキハ收入官吏ハ差押ヲ説キ更ニ他ノ
物件ヲ差押フルコトヲ得

負債者其義務ヲ認メサル場合ニ於テ他ニ差押フヘキ
物件ナキ時ハ收入官吏ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第二十七條ニアル如ク債主權ヲ差押ヘタルキハ其旨ヲ負債主即チ
借主等ニ通知スルモノナリ此通知ヲナシテ尚負債主ヲシテ滞納者
ニ全ク借ノアルヲ認メシム然ラサレハ之ヲ賣却スルモ權義ノ判
然セサルモノナレハ買入ナカルヘシ若シ一二アルモ價非常ニ安直
ナルハ自然ノ通情ナリ故ニ義務アルヲ認メタル上賣却スヘシ若
シ負債者ニ於テ覺ナキ旨申立テ認メサルキハ政府ハ素ヨリ訴訟ヲ
好ムニアラサレハ斯ル煩ハシキモノハ捨テ他ニ残り有ル財産ヲ差

押ルナリ然レモ他ニ財産ナキキハ訴訟ニ涉ルモノナレハトテ打捨
テ損スルヲ得ス裁判所ニ訴フヘシ此訴ヲナスニハ未タ期限前ノ
モノナレハ義務ヲ認ムルヲ請求シ已ニ期限ノ到着シタル義務ナ
レハ返却ヲ請求スルヲ得ルモノナリ

此等ノ費用ハ第八條ニアル如ク滞納者ノ負担ニシテ差押財産中ヨ
リ出スヘキハ當然ノ道ナリ

第三十九條 不動産及船舶ノ公賣ハ入札ヲ以テ之ヲ爲
スヘシ

不動産船舶ノ如キハ重大ノ物件ニシテ且ツ之ヲ讓渡スレハ登記ヲ
ナサ、ルヘカラサルモノナレハ競賣ニナサス丁重ノ取扱ヲナシ必
ス入札ヲ以テスルヲ定メタルナリ

第四十條 賣却ヲ爲スニ當リ買受望人ナキカ又ハ其買受價格カ豫定價格ニ達セサルトキハ收入官吏ハ其豫定價格ノ幾分ヲ減シテ更ニ豫定價格ヲ定メ再公賣ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ尚ホ買受望人ナキカ又ハ其買受價格尚ホ豫定價格ニ達セサルトキハ其豫定價格ヲ以テ其物件ヲ政府ニ買上ケ其代金ヲ處分費税金ニ充ツヘシ

第十三條但書ニ依リ差押ヘタル全部ノ物件ヲ政府ニ買上ケタル場合ニ於テ其代金ヲ處分費税金ニ充テ尚ホ殘餘アルトキハ第四十三條ニ依リテ處分スヘシ之レ尤モ滞納者ヲ保護シタル箇條ナリ如何ニ貴重有益ナル財産ナ

リトモ其當時金融不通ナルカ又ハ其他ノ事情ヨリシテ買受人ナキトアルヘシ此場合ニ於テ舊法ニヨレハ價格ノ多少ニ拘ラス官没シタルモノナリ又望人アルモ收入官吏ノ作りタル豫定價額カ百圓ナルニ望人ノ相場ハ五十圓ナルトアリ此場合ニ於テモ舊法ニヨレハ豫定價額ナルモノナケレハ五十圓ニ賣却シタルモノナリ然ルニ本法ニヨレハ此等ノ場合ニ於テハ收入官吏ハ更ニ豫定價額ノ幾分ヲ減シ前例ニヨリ七十五圓ト定メ再公賣ヲナスナリ此場合ニ於テモ尚ホ豫定價額タケノ望人ナキハ三タヒマテ公賣ニ附スルト得ス二度公賣シテ望人ナキハ最早公賣スルモ益ナキト見ナシ官府ニ於テ豫定價額ヲ以テ買上ルモノナリ此買上ル價額ハ最初ノ豫定價額(前例ニヨリ)百圓ナルヤ又ハ二度

目ノ豫定價格七十五圓ナルヤ本條ニ判然セサレモ此這ハ二度目ノ價格ヲ指スモノナリ何トナレハ百圓ニ買入無ケレハコソ尚再考シテ七十五圓ト豫定シタルモノナリ取モ直サス七十五圓ノ相場ノモノト見ナシタルナリ然レハ百圓ニ買上ル謂レアラシヤ

右財産全部買受望人ナキトアリ又ハ數多ノ物品中其中幾品ニ付テ望人ナキトアリ一部ニ付テ買受人ナク賣却シタル代金ノミニテ尚不足アルキハ勿論官府ニテ殘部ヲ買上ケ此代金ヲ以テ處分費及税金ニ充ルモノナリ若シ處分費税金ヲ引去リ殘餘アルキハ債主ニ拂ヒ滞納者ニ還付スル等詳クハ第四十三條ニ付テ説明スヘシ

第四十一條 賣却ヲ終リタルトキハ收入官吏ハ賣却調書ヲ製シ買受人ト共ニ署名捺印シテ其謄本ヲ滞納者

ニ交付スヘシ質入書入ノ物件ヲ賣却シタル場合ニ於テハ其債主ニモ其謄本ヲ交付スヘシ

買受人賣却調書ニ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ記載スヘシ

債主權ヲ賣却シタル場合ニ於テハ負債者ニ買受人ノ住所氏名ヲ通知スヘシ

賣却ヲ終リタルキハ其賣却ノ正當ナルトヲ証スルカ爲メ收入官吏ハ賣却調書ヲ作り競賣又ハ入札ニテ買受ケタル人ト署名捺印スルモノナリ而シテ其謄本ヲ滞納者ニ渡シ賣却シタル財産中ニ質入書入ト爲シタル財産アルキハ其書入債主質取主ニモ謄本ヲ交付スルモノナリ

又賣却シタル財産中ニ債主権アルキハ負債主ニ何某ニ賣渡シトナリタルコトヲ通知セサルヘカラス然ラサレハ負債主ハ何人ニ弁済スルヤ途ヲ知ラサレハナリ

第四十二條 賣却シタル物件登記ヲ要スルモノナルトキハ収入官吏ハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ買受人ニ交付スヘシ

土地建物船舶等ヲ賣買シタルキハ登記スルモノナリ登記ヲナスニハ落札達書及代金完納ノ證書ヲ要スルコト登記法ニアリ故ニ収入官吏ハ此等ノ證書ヲ作り買受人ニ渡スモノナリ

第四十三條 差押物件ノ賣却代金及差押ヘタル通貨ハ處分費税金ニ充テ尚ホ殘餘アルトキハ之ヲ滯納者ニ

還付スヘシ

賣却シタル物件質入書入ト爲シタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ處分費税金ヲ控除シ次ニ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ尚ホ殘餘アレハ之ヲ滯納者ニ還付スヘシ若シ滯納税金ノ納期限ヨリ一箇年前ニ質入書入トナシタルモノナルトキハ其代金ヨリ先ツ其負債金額ニ充ルマテヲ債主ニ交付シ次ニ處分費税金ヲ扣除シ尚ホ殘餘アレハ之レヲ滯納者ニ還付スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ滯納者ニ對シ裁判ノ執行アルトキハ其殘餘金ハ該裁判所ニ送附スヘシ

數回陳弁シタル如ク差押ヘタル物件ヲ賣却スルハ處分費税金ニ充
ンカ爲メナリ故ニ處分費税金ヲ取りタル殘部ハ素ヨリ滞納者ニ還
スヘシ然レモ右物件中質入書入トナリタルモノアルキハ殘部ヲ直
チニ滞納者ニ下付スルコトヲ得ス質取主又ハ書入債主ニ對付スルモ
ノナリ之ヲ通常ノ權利者トスレハ質取主書入債主ト金額ニ應シテ
分配スヘキモノナリ否此等ハ先ニ取ルヘキ筈ナレモ第六條ニ於テ
述ヘタル如ク官府ハ先取特權アルヲ以テ何人ヨリモ先ニ進ンテ取
ルコトヲ得ルナリ此權利ハ飽迄以前ニ溯ルコトヲ得ス即チ納期限ヨリ
一ヶ年前ニ質入又ハ書入ニ取りタルモノナルキハ官府ハ先取スル
コトヲ得ス先ツ質入書入トナシタル負債高ヲ拂ヘ然ル後ニ處分費税
金ヲ取去ルナリ

右ノ場合ニ於テ質入主書入債主カ裁判所ニ出訴シテ最早執行ニ至
リタルキハ納税ヨリ一ヶ年前ノ負債ナレハ負債金額ヲ 一年後ニ
負債シタルモノナレハ處分費税金ヲ引去リタル殘金ヲ裁判所ニ送
附スルモノナリ

第四十四條 債主ニ交付スヘキ金額ハ賣却調書ノ謄本
及計算書ヲ滞納者ニ交付シタル後五日ヲ經テ之ヲ交
付スヘシ若シ五日以内ニ滞納者ヨリ異議ヲ申立ルト
キハ其事由ヲ債主ニ通知シ雙方連署ノ書面又ハ確定
裁判ノ言渡書ヲ以テ其金額受取方ヲ申出タルトキ之
ヲ交付スヘシ

滞納者ト雖モ權利ノアル處ハ充分申立ルノ余地ヲ與ヘサルヘカラ

ス故ニ賣却調書ノ謄本及計算書ヲ滯納者ニ渡シ五日ヲ經過セサレ
 ハ質取主抵當取主ニ金圓ヲ交付スルヲ得ス滯納者ハ此五日内ニ
 違算又ハ其他ノ事故ヲ申立ルヲ得ルナリ五日内ニ滯納者ヨリ異
 議ノ申立ナキハ收入官吏ハ債主ニ金圓ヲ渡スヘシ若シ異議アリ
 タルハ其異議ノ次第ヲ債主ニ通知ス然ル上ハ質取主又ハ書入債
 主ト滯納者示談ノ上連署ノ書面ヲ差出スカ又ハ裁判落着ノ上言渡
 書ヲ以テ受取方ヲ申出ツルニアラサレハ收入官吏ハ何レヘモ金圓
 ヲ渡スヲ得サルナリ

第四章 送達

第四十五條 滯納處分ニ関シ滯納者又ハ其債主若クハ
 負債者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送
 達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場
 合ニ於テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第四十六條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不
 在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ
 使丁ハ送達書類ヲ受取リタル者ヨリ領収書ヲ取リテ
 收入官吏ニ取出スヘシ若シ受取人領収書ヲ記スルコ
 ト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ
 捺印セシムヘシ

第四十七條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡し其領收書ヲ取リテ收入官吏ニ差出スヘシ

第四十八條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ書類ヲ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ公示スヘシ
公示ハ送達スヘキ書類ノ要旨ヲ摘記シテ之ヲ其本人所在地ノ市役所若クハ區役所若クハ町村役場ノ掲示場ニ三日間掲示スルモノトス
前項ノ掲示ヲ爲シタル日ヨリ五日ヲ經過スルトキハ書類ノ送達アリタルモノト看做スヘシ

第四十九條 郵便ヲ以テ書類ヲ送達スルニ當リ受取人ノ住居不分明ニシテ配達スルコト能ハサルトキハ收入官吏ハ其書類ヲ市町村長ニ送致シ市町村長ハ前二條ニ依リ處分スヘシ

右五ヶ條ハ書類送達ニ関スルニシテ文意明瞭且ツ裁判上送達スル取扱方ト格別差異ナキナレハ最早諸君ノ實見スル處多言ハ贅説タルヲ以テ一括シテ茲ニ略述スヘシ
送達書類トハ滯納通知書費却騰本等ニシテ此等ハ滯納者本人ニ渡スヘキナレモ若シ不在ナルキハ同居親族又ハ納税代人等ニ渡スヲ得ルナリ此等ノ者モナキハ市町村長ニ渡シ市町村長ハ之ヲ滯納者ニ渡スヘシ若シ渡ス不能ハサルキハ掲示場ニ公示シテ五日ヲ

過ルキハ本人ニ渡シタルノ効力アルモノトス
加之本法ハ裁判所ノ送達方ヲ尚擴張シテ書留郵便ヲ以テ送達スル
ヲ得ルト定メタリ之レ尤モ便法ニシテ此場合ニ於テモ使丁ニ送
達セシメタル場合ト異ルヲナシ

第五章 罰則

第五十條 正當ノ理由ナクシテ第二十一條第一項ノ
立會ニ應セサル者ハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス
人各々社會ニ生息スル以上ハ公力ノ已レニ保護ヲ與ヘラル、ト同
時ニ相當ノ公務ヲ盡サ、ルヘカラス収入官吏ノ家屋倉庫ニ立入ル
場合ニ立會人トナルハ恰モ治罪法ノ裁判上ノ證人トシテ呼出サル
、ト同一ニシテ隨分迷惑ナルモノナルヘシ此収入官吏ノ立會ヲナ
スヘキ義務アル人ハ第二十一條ニアル如ク

第一滯納者ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ立入ルキハ滯納者及ヒ同居
家族

第二他人ノ場所ニ立入ルキハ其所用者又ハ同居家族

其他隣佑市町村吏警察吏ハ第一第二ノ場合共ニ此義務アルモノナリ

右以外ノ者ニ立會ヲ命シタルキハ拒ムコトヲ得テ罪トナラサレモ右等ノ者若シ正當ノ事由ナクシテ立會ヲ拒ミタルキハ二圓以上十圓以下ノ罰金ニ處スルモノナリ

正當ノ理由トハ豫メ定ルコト能ハサレモ一ノ例ヲ舉レハ發病公務等立會フコト能ハサル事情ナリ若シ此等ノ事由ナクシテ拒ミタル場合ニ罰金ヲ言渡スニハ収入官吏ヨリ裁判所ニ告訴スルモノナリ以下同シ

第五十一條 滯納處分ニ對シ財産ヲ藏匿脱漏シ又ハ虚偽ノ契約ヲ爲シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮

ニ處ス

差押物件ノ保管者其保管ニ係ル物件ヲ藏匿脱漏費消若クハ故意ニ毀損シタルモノモ亦同シ

情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ又ハ虚偽ノ契約ヲ承諾シタル者ハ各本刑ニ一等ヲ減ス

財産ヲ藏匿脱漏スルトハ物品ヲ隠シ貸金ヲ申立テスシテ不正ニ滯納處分ヲ免ル、モノヲ云フ又虚偽ノ契約ヲ爲シタル者トハ人ト相談シテ財産ヲ人ニ賣渡シタル様ニ作爲スルカ如キ者ヲ云フ此等ノ者ハ重刑ヲ科セサルヘカラス

刑法第三百八十八條ニハ家資分散ニ際シトアリ本條ニハ滯納處分ニ對シトアリ其文字異ナレモ其意味ニ至リテハ同シ刑法ノ文面ニ

テハ議論ノ生スルヲ以テ之ヲ避ケンカ爲メ斯ク記定シタルナリ即チ滞納處分中ト前トヲ問ハス滞納處分ヲ免レンカ爲メ云々ト爲シタル者ヲ云フナリ

一旦差押ヘタル以上ハ滞納者又ハ其他ノ人ヲ以テ保管セシムルヲアリ此等ノ者保管物件ヲ藏匿脱漏スルカ又ハ費消シタルキモ亦同シク一月以上一年以下ノ重罰ニ處セラル、ナリ又故意ニ其物件ヲ毀損シタル者モ同罪ナリ故意トアル以上ハ勿論過失ニヨリ毀損シタルハ罰スルヲ得ス然レモ民事上損害賠償ノ責任アルヘシ情ヲ知テ前二項ノ所爲ヲ幫助シ例ヘハ滞納處分ヲ免レンカ爲メ財産ヲ隠スヲ知リナカラ之ヲ手傳ヘ保管者カ保管物件ヲ使用スルコトヲ知リナカラ之ヲ分配スル如キ之ナリ 又虚偽ノ契約ヲ承諾

ルストハ賣渡シタル様ニ作爲スルヲ買受ケタル様ニナス者ヲ云フ此等ノ一ヲ爲シタル者ハ一等ヲ減シテ罰セラルヘシ右等ノ處爲ヲ教唆シテ爲サシメタル者ハ如何之レ素ヨリ刑法ニヨリ正犯ヲ以テ論シ同シク一ヶ月以下二年以上ノ重禁錮ニ處スルモノナリ

附則

第五十二條 市町村制ヲ施行セサル土地ニ在テハ市町村長ノ職務ハ區戸長之ヲ行フヘシ

第五十三條 此法律ハ明治二十三年一月一日ヨリ施行ス但沖繩縣及東京府管轄小笠原嶋伊豆七嶋ハ之ヲ施行セス

第五十四條 明治十年第七十九號布告及現行法令中此法律ニ抵触スル條項ハ總テ廢止ス

地方稅滯納處分法解

法律第三十三號

地方稅及ヒ備荒儲蓄金ヲ滯納スル者ハ國稅滯納處分法ニ依リ之ヲ徵收スヘシ但シ備荒儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ル者ハ備荒儲蓄金ヲ免除スヘシ

明治十三年十一月第五十号布告ハ廢止ス

地方稅及備荒貯蓄金ヲ滯納スル者ハ同シク前陳辯シタル國稅滯納處分法ニ依リテ支配セラル、₁ニシテ毫モ異ル所ナケレハ茲ニ說明ノ勞ヲ省ク但シ備荒貯蓄金ノ滯納ニ付テハ特例アリ即チ備荒貯蓄金ヨリ給與補助ヲ受ルモノ(例へハ洪水暴風雨等非常ノ災厄ニ罹リタルモノ)ハ備荒貯蓄金ヲ免除セラル、ハ當然ノ₁ナリ

國稅滯納處分法解畢
地方稅

大藏省令第一號

國稅滯納處分法施行細則

第一條 處分法第二條ノ督促令狀同第十二條ノ差押命令書ハ第一號様式第二號様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 處分法第十八條第一第二ニ掲クル衣服、寢具、家具、厨具、食料及薪炭ノ數量ハ普通法ノ例ニ依ルヘシ

但其例ナキモノハ人口ヲ量リ生活上必要ト認ムル數量ヲ殘シ置クヘシ

第三條 財産差押ノ調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ

- 一 滯納者ノ住所氏名
- 二 動産ハ其名稱、種類、數量
- 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價地租
- 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所
- 五 登記簿ニ登記アル質入書入ノ金額利子及其返濟期限、登記ノ年月日債主

ノ住所氏名又ハ質入書入ノ登記アラサルコト 六 貸與シタル不動産ニ付テハ借主ノ住所氏名、其契約ノ要項返戻期限アレハ其期限及賃金 七 差押ノ事由及手續

第四條 債主差押ノ通知書ニハ左ノ諸件ヲ記載シ収入官吏署名捺印スヘシ

一 差押ヘタル債主權ノ種類、員額 二 差押ノ事由 三 滞納者ニ對シ義務ノ履行ヲ爲スモ無効タルヘキ旨 四 此通知書ノ送達ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ其義務ヲ認ムルカ又ハ認めサル旨ヲ申出ツヘキ旨

第五條 財産賣却ノ公告文ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ 一 滞納者ノ住所氏名 二 動産ハ其名稱、種類、數量 三 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別又ハ坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租 四 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所 五 競賣若クハ入

札ノ場所、日限 六 開札ノ場所、日時 七 保證金ヲ徴スルトキハ其金額 八 代金納付ノ期限 九 條件附ノ不動産ナレハ其ノ

第六條 競賣ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ収入官吏競賣人ヲ命シテ之ヲ取扱ハシメ自カラ之ヲ監督スヘシ、入札ヲ以テ賣却ヲ爲ストキハ収入官吏自カラ之ヲ取扱フヘシ

第七條 賣却物件ノ買受人代金納付ノ期限内ニ代金ヲ完納セサルトキハ其物件ヲ交付セス更ニ賣却ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ保證金アルモノハ之ヲ還付セス其金額ハ處分費税金ニ補充スヘシ

第八條 財産賣却調書ニハ左ノ諸件ヲ記載スヘシ 一 動産ハ其名稱、種類、數量 二 不動産ハ其位置、番號、名稱、種類、段別坪數及土地臺帳ニ記スル地價、地租 三 船舶ハ其種類、積量、定繫場及所在ノ場所 四 公告及賣却ヲ爲シタル方法 五 競賣ヲ爲シ又

ハ入札ヲ開キタル場所日時 六 三番札マテノ入札代價並其入札人ノ住所氏名 七 再公賣ヲ爲シタルトキハ其事由 八 保證金ヲ徴シタルコト及其金額 九 落札代價及落札人ノ住所氏名 十 代金納付ノ日限

第九條 處分法第四十條ニ依リ賣却物件ヲ政府ニ買上ルトキハ收入官吏該代金ヲ地方長官ニ請求シ之ヲ支辨シ該物件ハ主管ノ官吏ニ引渡スヘシ

第十條 滞納處分濟ノ上國庫ノ損失ニ歸シタルトキハ處分濟ノ日ヨリ十日以内ニ收入官吏ヨリ事由ヲ具シ其缺損額ヲ地方長官ニ稟申スヘシ

第十一條 處分法第十一條ニ依リ滞納處分ノ囑託ヲ受ケタル收入官吏ハ其處分ニ由リテ徴収シタル金額ノ内處分費ヲ扣除シ其殘金及諸書類ヲ囑託收入官吏ニ送付スヘシ若シ滞納者又ハ債主ニ交付ス

ヘキ金額アリテ其者受託收入官吏ノ管轄地内ニ住スルキハ受託收入官吏ニ於テ其金額交付ノ手續ヲナスヘシ

第十二條 處分法第四十三ニ依リ殘餘金ヲ滞納者ニ還付シ又ハ負債金額ヲ債主ニ交付スルトキハ左ノ諸件ヲ記載シタル計算書ヲ添付スヘシ 一 物件賣却代金 二 保證金ヲ還付セサルトキハ其金額 三 處分費各費目ノ金額及税金 四 債主ニ交付スヘキ金額及債主ノ氏名 五 滞納者ニ還付スヘキ金額

第十三條 處分法第四十五條ニ依リ使丁ヲ以テ書類ヲ送達スルトキハ第三號様式ノ送達書ヲ添付スヘシ

第十四條 處分法第四十八條ニ依リ市町村長ニ於テ送達書類ノ公示ヲ爲シタルトキハ直チニ其公示ノ日時ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第十五條 督促令狀ヲ受ケタル後チ滞納者又ハ第三者ニ於テ滞納處分費及税金ヲ完納スルキハ滞納處分費ハ第四號様式税金ハ第五號

様式ノ納付書ニ督促令状ヲ添付シ之ヲ金庫ニ拂込ムヘシ
第十六條 賣却物件ノ買受代金ハ買受人ニ於テ第六號様式ノ納付書
ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ納付スヘシ
(様式略ス)

明治廿三年一月十四日印刷
同年同月十五日出版

正價三十錢

發行者

茨城縣平民
萩原賢之助
日本橋區元大坂町
十三番地寄留

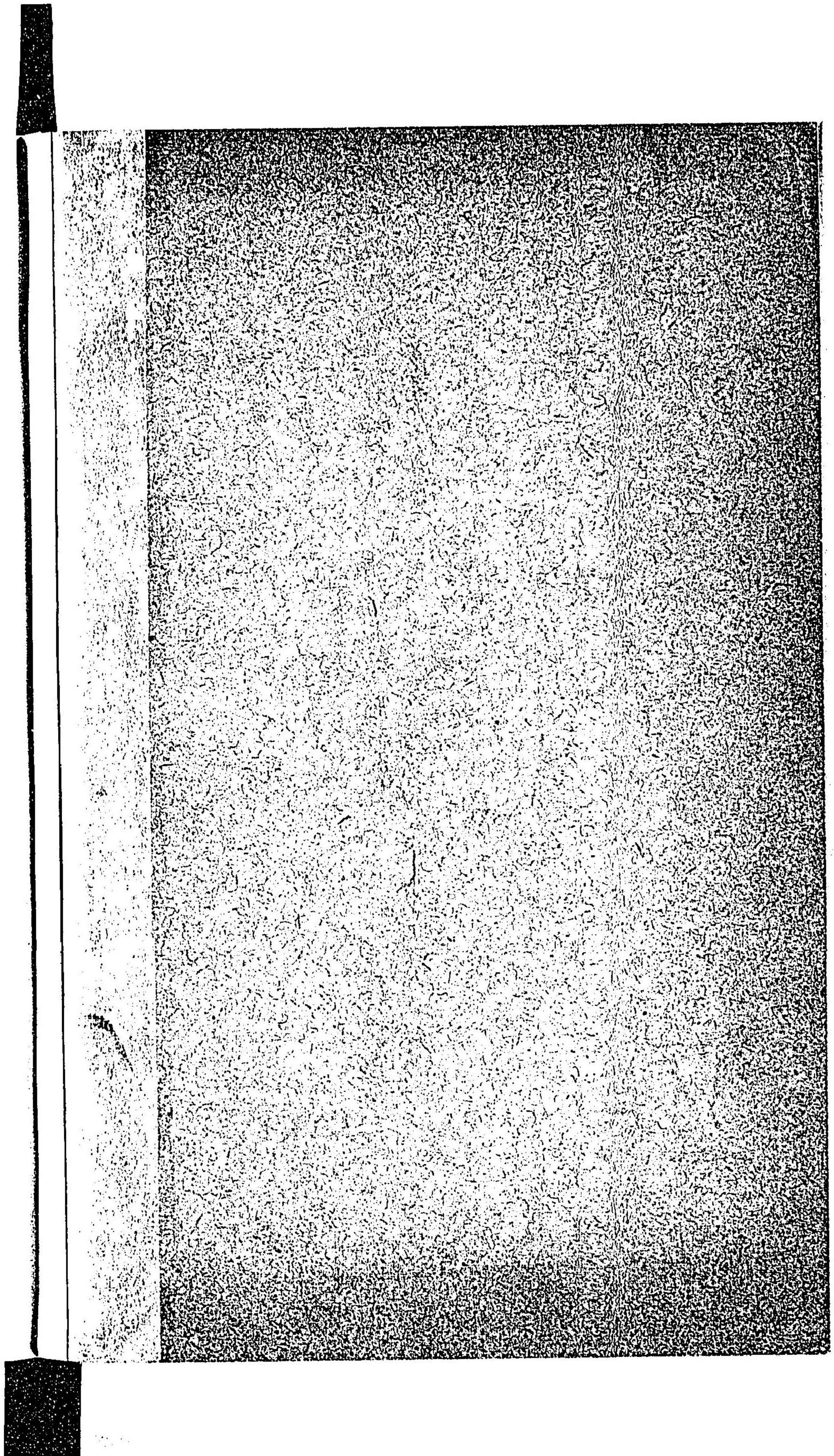
印刷者

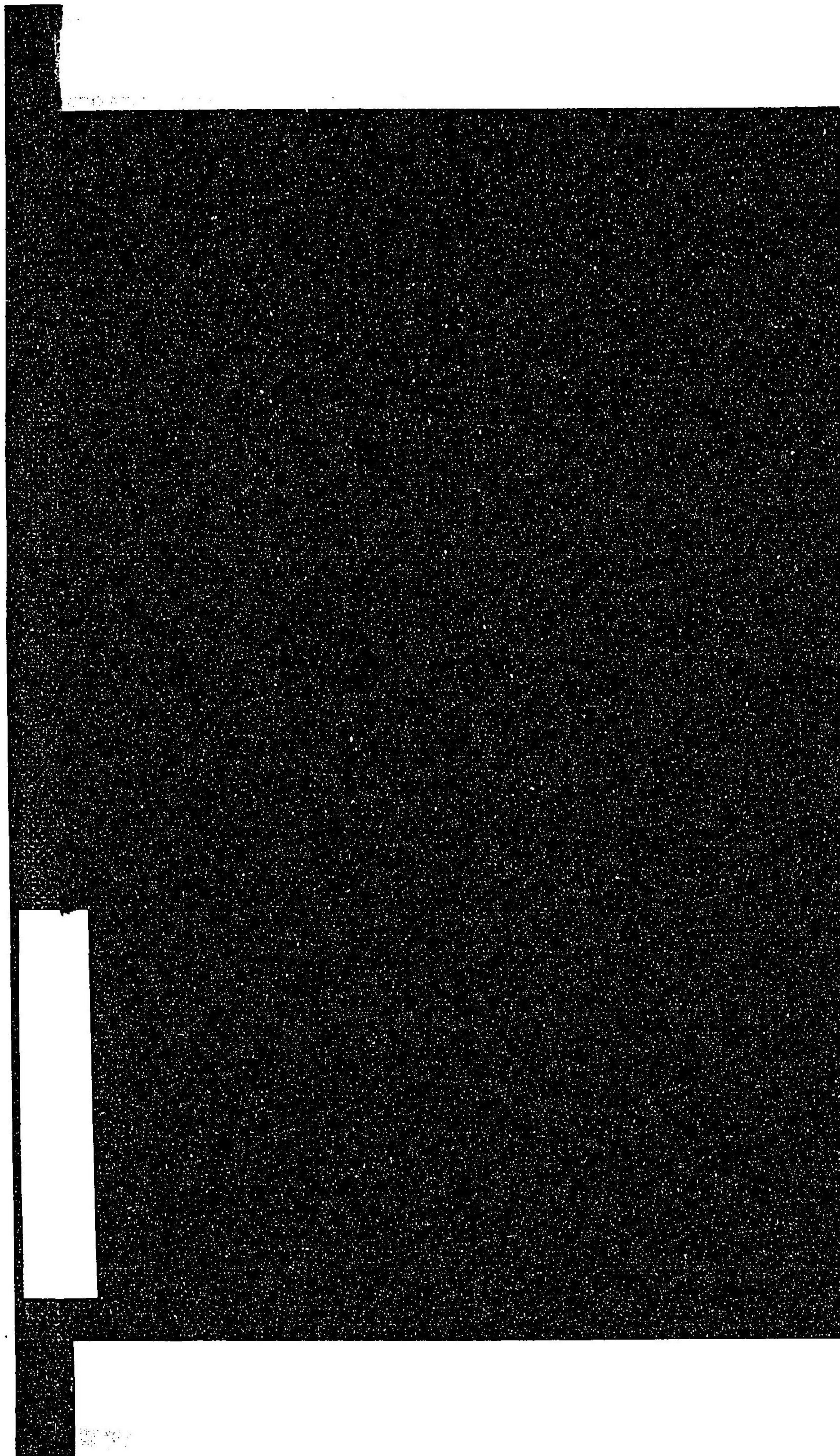
茨城縣平民
吉原貞助
麹町區飯田町二丁目
五十番地寄留

發賣所

神田團々社
神田裏神保町
敬業社







特46

410

国税 地方税 滞納 処分 法 解

国立国会図書館

032970-000-9

特46-410

国税地方税滞納処分法解

萩原 賢之助 / 著

M23

BBJ-0274

